

予算・決算委員会 (平成28年度決算審査)

公園維持管理経費

宮武祥子

市内に複数ある公園の中には、設立当初は遊具として設置されていた物が、その後使用方法が規制されたり、使用が禁止されている物があります。安全面を考慮した上での規制は理解できる反面、規制をかけることで本来の公園の意味が薄れてきていることから、公園管理の方法や範囲などについて質疑しました。時代の変化に伴い、本来の目的からそれたものや、危険と判断したものについては、安全を考慮した管理をしているとのことでした。

河川維持補修経費

若木康夫

市内7河川の維持、修繕の状況について質問しました。市内普通河川の上警別川流域は扇状地形となっており、地質学的に土石流などの土砂災害が発生しやすい。下流には住宅街が広がっており、連続した豪雨時には注意を要します。市内主要3河川は北海道の管轄ですが、水害などで直接被害を受けるのは市民であることから、中洲に繁茂する樹木の伐採、堤防の保全整備について、本市から北海道への継続した働き掛けを要望しました。

胆振女性リーダー養成研修経費

佐々木久美子

質 決算額4万7千円の内訳は。
答 全額が研修の負担金で、交通費と宿泊費となっている。
質 予算額11万円に対して決算額が4万7千円と減額になっている理由は。
答 2名分を計上していたが、実際には1名の参加となったため。
質 研修に参加した成果をどのように活用していくのか。
答 研修で得た成果を発揮することで活動する団体の活性化が図られることを期待している。

中学校に学校図書館司書の配置を

渡辺勉

平成27年度から全小学校において、2校に1名の割合で学校図書館司書が配置されています。読書環境整備と併せて、子どもの居場所づくりとしても効果的であると考えます。司書配置により、温もりのある学校図書館となったことで、利用する児童数は平成27年度2万1千73人と、前年度実績の1.75倍にも増え、平成28年度にはさらに増えています。思春期の中学生にこそ、居場所づくりのために、学校図書館司書の配置を求めました。

いじめ対策にLINEを活用しては

戸井肇

不登校に関して、進学など環境が変わることにより改善することもあることから、不登校期間中も学力の保証ができるよう、支援を要望しました。いじめに関して、昨年9月に長野県でLINEを活用した相談を試験的に導入したところ、2週間で一昨年一年間の2倍以上の相談件数があった事例を紹介。本市での導入検討を要望したところ、他自治体の状況を注視して今後判断したいとの答弁でした。

歴史を探索 文化財保護管理経費

工藤俱二雄

質 郷土の文化財の保護と活用を図ることで、「市民のふるさと登別」を大切に心が養われる。また、登別の魅力を市内外へ発信していくためには、今後宮城県白石市のほかに、歴史的につながりのあるまちとの交流促進も考えていくべきでは。
答 四国、香川・淡路島など、多くの人が本市に移住してきている。現地調査はしていないが、今後、本市に入植した四国などを中心に調査したい。

景気が少しずつ良くなってきている

辻弘之

平成27年度と比較して、個人市民税が8億2千417万円、1.48%増収しました。人口は減少傾向にあるにもかかわらず、課税所得の8割を占める給与所得が0.75%増えています。また、税制改正により法人税割の税率が下がったにもかかわらず、法人市民税が5.9%増収となっています。景気動向を判断するには、さまざまな基準がありますが、これらの状況から判断すると、ここ登別市においても景気が少しずつ良くなってきているようです。

時代の変化に対応した 事業施策を

杉尾直樹

総務・民生・商工・教育と各款から8項目の質疑をしました。全体的に継続事業が多い中、見直しの必要性を主張しました。以前も観光施策補助金に対して提言しましたが、抜本的な改革はされていません。今回は地域のセーフティネット再編の意味から、老人クラブや民生児童委員の活動経費について、また、地元出身者のターンやUターン施策の必要性についていただきました。